# 平成21年度「大学教育・学生支援推進事業」 【テーマB】学生支援推進プログラム

# モバイルe-learningによるキャリア教育の支援(最終報告)

千里金蘭大学 学生支援センター キャリアサポート課

#### 1. はじめに

本学では、平成 21 年度に文部科学省の大学教育・学生支援推進事業による補助を受け、 学生支援センターで行っているキャリア教育を充実させる目的でモバイル e-learning を 導入いたしました。モバイル e-learning により、基礎学力を向上させるため平成 21 年度 11 月より運用を開始しました。平成 22 年度までの結果については昨年度の報告 (<a href="http://www.kinran.ac.jp/campus/support/spt\_report.pdf">http://www.kinran.ac.jp/campus/support/spt\_report.pdf</a>) をご覧ください。

ここでは、平成 23 年度までにおける 3 年間の運用実績を踏まえ、今年度までの学習内容及び結果について報告致します。

#### 2. モバイル e-learning について

本学ではモバイル e-learning として「学習支援システム C-Learning」を導入しています。C-Learning に技能問題を登録し、携帯機器を使用して「いつでもどこでも」学習が可能な環境です。学生の実施状況については、学生支援センターにおいて学習状況が確認できる為、メールなどでサポートを行うことが可能です。

#### 3. 学習コンテンツについて

学習コンテンツは、主に、中学校卒業~高校 1、2 年生レベルの内容であり、言語系および非言語系の 2 つに分類されています。問題の内容は、非言語系については基本的な計算能力の問題および論理的な問題、言語系については、語彙能力および慣用句の問題です。

これらの問題は、就職時の筆記試験において頻出する SPI 試験と共通する部分が多いため、就職における筆記試験にも効果が上がります。学習 1 回あたりを 5 問と設定し、10 分程度で解答できるように設定しています。これは、短時間で、「いつでも、どこでも」学習することを目的としているためです。

出題に関してはランダムで出題されるため、パターンを覚えるといったこともありません。問題は、毎月、新規問題を 20 問~40 問を追加しており、平成 23 年度までに 750 問作成しました。

コンテンツにつきましては、平成 21 年度までは言語系・非言語系の問題を作成していましたが、平成 22 年度からは言語系・非言語系以外にも日本語検定の問題を取り入れ、平成 23 年度には時事問題などの問題(50 問)内容を取り入れました。これは、C-Learning に取り組んでいる学生が、非言語系及び言語系の問題だけでは継続が難しくなる可能性があり、問題の種類を増やして取り組みやすくする目的でもありました。表 1 に、コンテンツの出題範囲を示します。

表 1 コンテンツにおける出題範囲

分類	主な出題内容					
言語系	語系 同意語,反意語,ことわざ,熟語、敬語,語の意味,慣用句,四字熟語, 故事成語,文法,類義語,対義語,2語の関係、漢字の組み立て					
非言語系	濃度、ハジキ算(速さ,時間,距離)、推理&論理、換算、時間の計算、 平均、年齢算、旅人算					
日本語検定	言葉の意味、文法、敬語、語彙、表記 過去の検定試験問題					
時事問題 社会政治問題、世界遺産、ノーベル賞、国語						

# 4. 座学での学習について

C-Learning はモバイルの学習を前提としている為、自学自習が主になります。しかし、自学自習が困難な学生に向けては、座学での学習を並行して実施しました。

内容は基本的な SPI 対策講座、及び応用的な内容の一般教養対策講座の 2 種類を開講することで幅広く対応しました。開講スケジュールについては長期休暇中だけではなく、通常授業の合間にも実施することで、参加しやすい環境としました。平成 21 年度から平成23 年度の対策講座のスケジュールを表 2 に示します。

表 2 対策講座のスケジュール

年度	SPI 対策講座実施時期		一般教養対策講座時期		
平成 21 年度	3月11日	SPI 対策講座①		一般教養対策講座①	
	3月18日	SPI 対策講座②	2月24日~3月12日		
	3月25日	SPI 対策講座③			
平成 22 年度	9月9日	SPI 対策講座①	5月13日~7月1日	一般教養対策講座①	
	12月24日	SPI 対策講座②	10月7日~12月16日	一般教養対策講座②	
	2月14日	SPI 対策講座③	2月14日~3月28日	一般教養対策講座③	
平成 23 年度	9月13日	SPI 対策講座①	5月12日~6月30日	一般教養対策講座①	
	12月22日	SPI 対策講座②	10月6日~12月22日	一般教養対策講座②	
	2月14日	SPI 対策講座③	3月1日~3月15日	. 帆势美计空港应②	
	3月9日	SPI 対策講座	I 3月 I 日~3月 I3日	一般教養対策講座③	

# 5. C-Learning 登録状況

C-Learning の登録につきましては、運用を実施した平成 21 年度より一斉に C-Learning の登録会を実施し周知を図りました。平成 22 年度までの登録者数の詳細については、昨年度の報告(<a href="http://www.kinran.ac.jp/campus/support/spt\_report.pdf">http://www.kinran.ac.jp/campus/support/spt\_report.pdf</a>)で述べました。

周知の方法として、初年度(平成 21 年度)では学生の登録を平成 21 年 11 月に一斉に行っていましたが、未登録の学生に関しては3月30日に実施する履修登録および一斉試験において再度登録を促しました。C-Learningでは学年の更新などの作業は学生個人でさせることで利用状況の再確認及び必要性を喚起することができます。

平成22年度新入生に関しては、4月5日に実施のオリエンテーションにて、登録および 使用方法の説明を行いました。諸事情にて参加できなかった学生については、個別に登録 の説明を行うことでほとんどの学生が登録することが出来ました。

平成 21 年度後期より登録を促進することで、平成 23 年度までに 80%以上の学生が登録することができました。さらに、登録数を増やすためにオリエンテーション等の案内だけではなく、様々な機会を通じて登録を促しました。これらの取り組みにより、平成 23 年 1 月末の段階では全体の登録率が 90%を達成することができました。図 1 に平成 21 年度から平成 23 年度までの登録状況を示します。表 3 に現在の登録率を示します。

表 3 C-Learning の各学科登録状況 (平成 24 年 1 月末)

学科	1 年生	2 年生	3 年生	4年生	合計
食物栄養	97.6%	89.2%	83.1%	100%	92.2%
児童	97.4%	95.5%	64.7%	86.4%	84.9%
看護	98.9%	91.7%	85.4%	91.3%	91.8%
合計	97.9%	91.4%	79.9%	92.2%	90.4% (820 人)

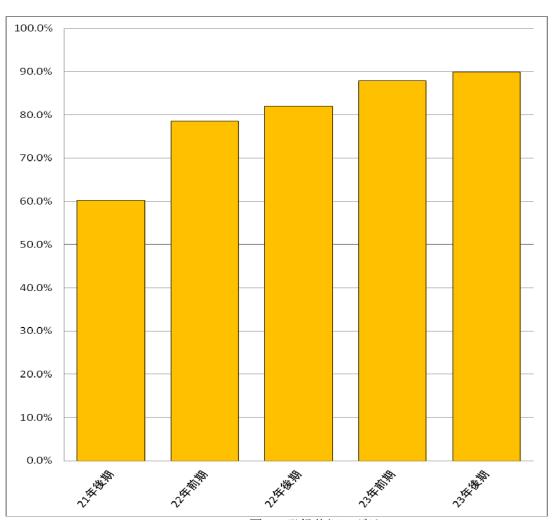


図1 登録状況のグラフ

# 6. 学習結果について

C-Learning で学習した内容については、毎年3月末に全学生を対象に学習結果を図ってきました。学習結果につきましては、実施している C-Learning はドリル形式での取り組みの為、外部試験にて判断しました。

試験の内容は主に一般企業系の採用試験で使用される「言語・数理・論理」及び公務員系の 採用試験で使用される「文章理解・数的推理・判断推理・資料解釈」の合計 7 分野からの出題 です。

C-Learning の学習結果を、図 2 に示します。平成 20 年度に関しては、全学生対象に実施しておらず、3 年生のみの受験の為参考値になりますが、試験結果に関しては、年度を追うごとに学力の向上が見られました。しかし、数理・数的推理・資料解釈などの非言語系の分野に関しましては、やや低い水準になっています。

導入して2年という短期間のため、今後は全国平均値を目標に運用を続けていきます。

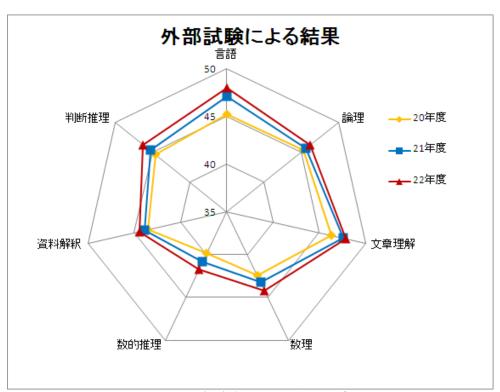


図2 外部試験による2年間の結果

#### 7. C-Learning を活用した結果

C-Learning を活用することで、全体的な結果としては学力向上が見られました。特に C-Learning を積極的に活用している学生に関しては外部試験の結果に変化が出ています。

詳細は省略しますが、積極的に活用している学生で成績がそれぞれ異なる学生3人を対象に結果を見てみますと、それぞれの成績の向上が見られました。積極的に取り組むことで学習結果に反映されやすく、結果的に汎用的技能の習得に繋がっているという結果が出ました。

しかし、現在積極的に C-Learning に取り組んでいる学生は全体の半数を満たしておらず、今後の課題として、出来るだけ多くの学生に積極的に C-Learning に取り組んでもらうように働きかける必要があります。登録状況は 90%を超えているので、今後 C-Learning を活用することで全体のさらなる成績の向上を目指すことが可能です。また、国家試験に向けて、必要とされる分野についても C-Learning の活用により、強化していきます。

# 8. 今後の運用について

## 1. 学習コンテンツについて

コンテンツについては、平成 23 年度までに計 750 間の問題を作成することができました。 学生への問題提供は毎月作成された問題でしたが、今後は問題を各分野に再構築して自分の弱い分野を集中的に学習が可能な様にします。

また、問題数に関しては、十分学習可能な量を備えることができたため、問題数の大幅な追加は行わず、内容の改善を行う予定です。他にも、問題内容に関しては、これまで言語系・非言語系などから時事問題まで取り扱ってきていましたが、それ以外にも就職活動などで役立つ内容などの実践的に使用できる問題を作成し、様々な分野での問題構築を図っていく予定です。

#### 2. C-Learning の運用について

現在、C-Learning を活用している学生は決して多くはありません。そこで、より一層活用できるように様々な機能を使って活用しやすい仕組みを構築していきます。

C-Learning には様々な機能が搭載されており、これまでに述べた機能は C-Learning の中の「ドリル」機能のみでした。 C-Learning には他にも「アンケート」や「出席管理」などの機能を有しおり、これらの機能を活かして学習以外の面からキャリア教育のサポートを図っていく予定です。

# 9. おわりに

ここでは、本学で採択された事業である学生支援推進事業(テーマ B)について、平成 21 年度 11 月末より運用を開始した C-Learning を利用した学習状況について報告しました。 約 3 年間の運用において、C-Learning を学生に十分に周知することができ、また大幅な変化とまではいきませんが、一定の効果を上げることができました。

今後も C-Learning の運用を続け、学生の学力向上について分析を行うとともに、必要な 汎用的技能を反復学習の実施により支援し、学生支援センターにおけるキャリア教育の支 援を行っていく予定です。